

京都の歴史と文化を背景に、豊かな教養人を育む充実した教育拠点を整備します

御所との近接性に配慮し、統一感のある勾配屋根の集合体により調和のとれた景観形成を図ります。



学校全体のイメージ

■ 歴史を生かした新たな教育環境

・正門をくぐった時に目の前に広がる前庭、管理棟そして図書館棟が織り成す思い出の風景を生かしながら、新たな教育環境へと再生します。

■ 教科の特色を活かした充実した教育環境

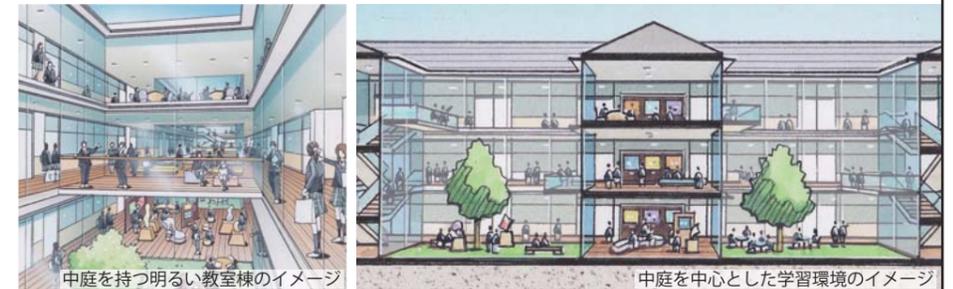
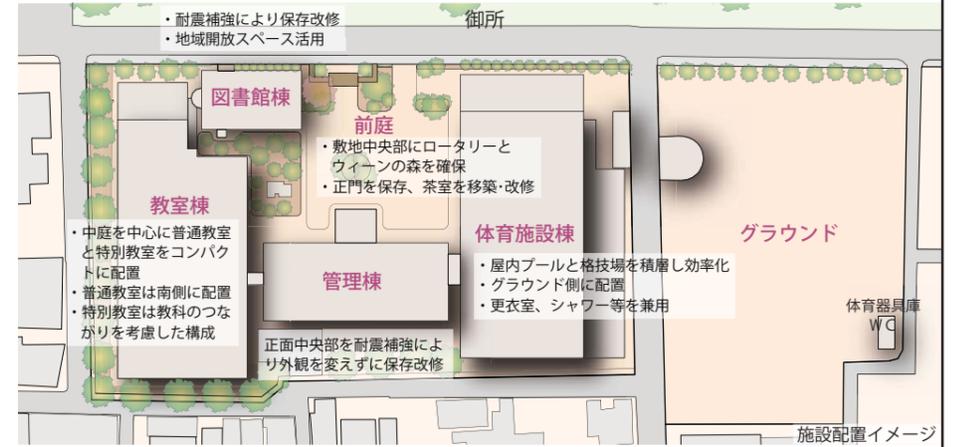
・芸術、科学、情報などそれぞれ関連した機能を集約して配置し、アートセンター、サイエンスセンター、メディアセンターを構成して、各教科の特色を活かした充実したゾーンを形成します。

■ 豊かな教養人を育む先新的な教育環境

・新校舎は将来を見据えてゆとりあるICT環境を整備すると共に、中庭の吹抜けを通して学年を超えた交流が生まれる快適な生活環境を実現します。
・図書館棟を地域や卒業生に開放することにより、生徒の交流を促し、コミュニティを形成する環境を整えます。

■ 健康的な心と体を育む教育環境

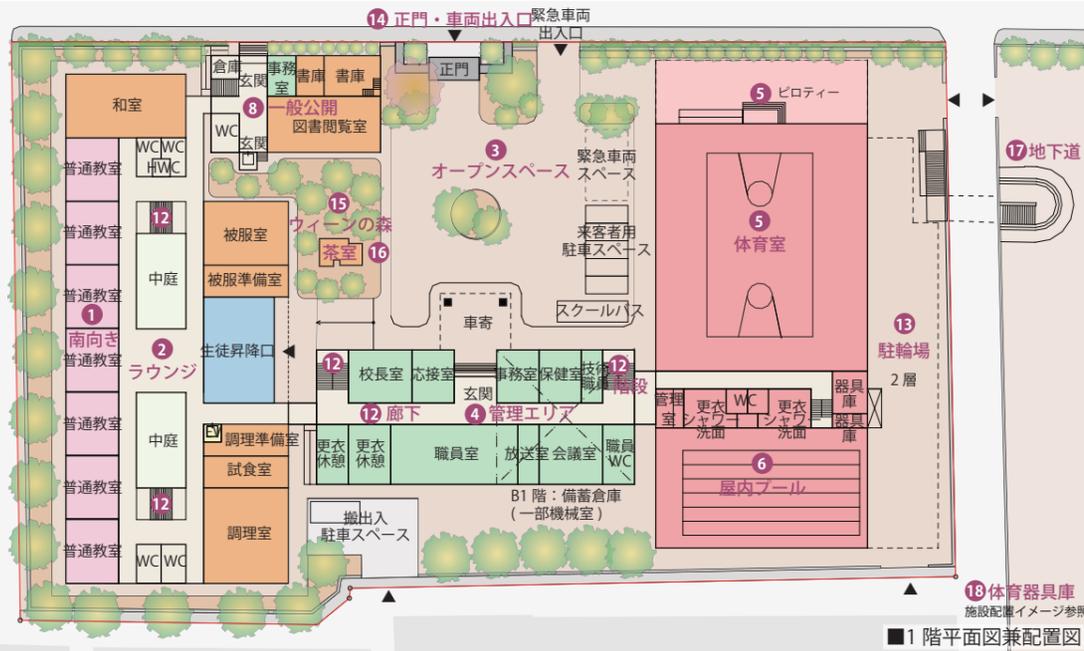
・体育室や格技場、プールを地上階にコンパクトに配置し、自然の光や風をふんだんに取り入れた快適なスポーツ環境を整備すると共に、雨天の運動スペースとなるピロティを設けます。



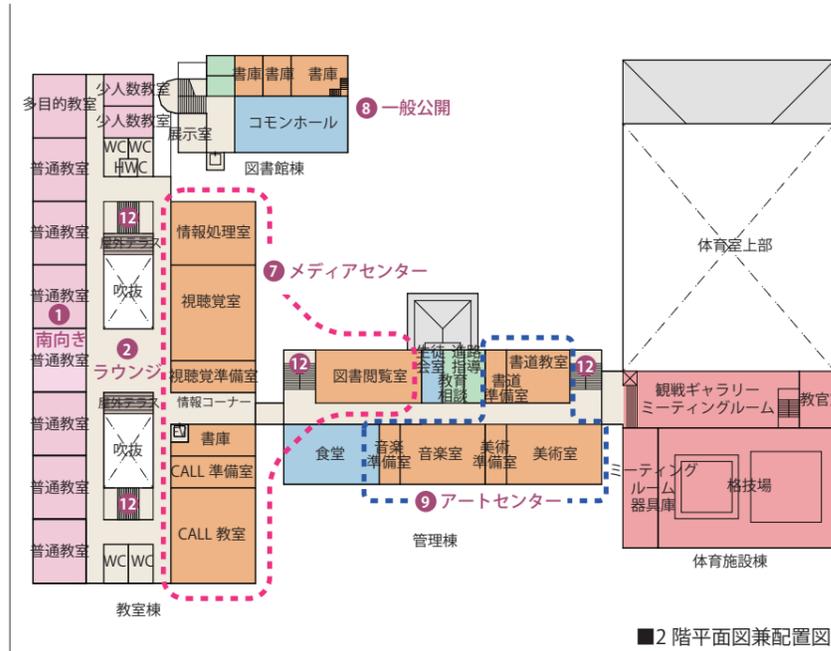
中庭を持つ明るい教室棟のイメージ

中庭を中心とした学習環境のイメージ

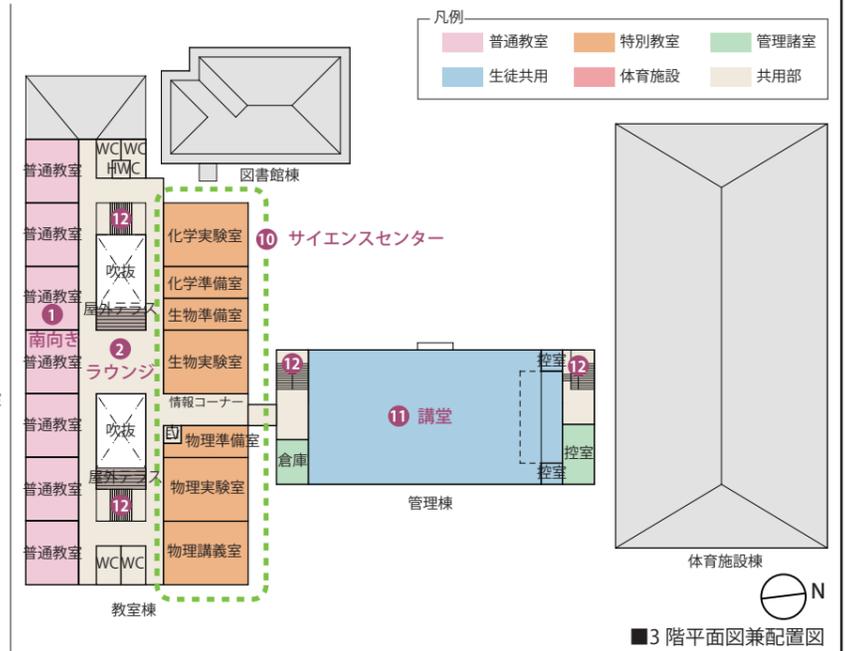
中庭を中心とした機能的な教室棟、歴史的建築物の管理・図書館棟、一体的な体育施設棟により多様なニーズに応える快適な学習環境を整備します。



■1 階平面図兼配置図



■2 階平面図兼配置図



■3 階平面図兼配置図

- | | | | | | | | | |
|---|--|---|---|---|--|---|--|---|
| <p>①南向きの普通教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年を1フロアとして南側に配置します。 ・2階に多目的教室とともに少人数講座に対応した教室を確保する計画とします。 | <p>③正面オープンスペース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・御所との関係性に配慮し、歴史的価値の高い正門と茶室により来訪者を迎え入れるとともに本館の正面が見えるオープンスペースを確保します。 | <p>⑤様々な活動に対応する体育館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドとオープンスペースに面した位置に配置し、様々な活動に対応しやすい体育館とします。雨天時に活用できるピロティを確保します。 | <p>⑦メディアセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新設図書館と情報関連諸室を2階にまとめて配置するとともに、ICTを活用したマルチメディア教育の場を構築します。 | <p>⑨アートセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存管理棟内に歴史的装いを継承した書道、美術、音楽の芸術系教室を集約して配置し、アートセンターとして整備して芸術文化系活動の拠点とします。 | <p>⑪講堂</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講堂の窓面や天井意匠は当時の面影を継承し保全した上で改修します。能などの伝統芸能の舞台としても利用できる整備を行ないます。 | <p>⑬駐輪場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒数の約80%の台数を確保します。荒神口通側からの出入口とし、生徒昇降口までの動線を確保します。 | <p>⑮ウィーンの森</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の思い出に残るウィーンの森の既存樹木は極力保全する計画とするとともに、現存する鐘を移築しメモリアルな場とします。 | <p>⑰地下道</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地下道はコンクリートの強度を確かめた上で保全改修する方向で検討します。強度が不足する場合は補強又は復元改修とします。 |
| <p>②生徒ラウンジ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室棟の中央部に生徒ラウンジを配置し、学年のつながりを深め、交流を誘発する計画とします。 | <p>④伝統を継承する管理エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の管理棟を残し、管理エリアとして活用します。 ・耐震性を向上させた上で当初の面影を保存し改修します。 | <p>⑥フレキシブルな温水プール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水球、シンクロに対応する可動床を備えたプールを躯体コスト、設備スペース等を考慮し1階に配置します。更衣室は体育館と兼用します。 | <p>⑧図書室を中心とした一般公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存図書館棟には記念図書館とともにコモンホール、学校の歴史展示スペースを設け、隣接する和室とともに記念館的な公開スペースを構築します。 | <p>⑩サイエンスセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物、物理、化学関連教室を集約するとともに、実験結果やレポート等を掲示する情報コーナーを設けサイエンスセンターとして整備します。 | <p>⑫階段・廊下</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存部分は補修は加えながら特徴的な意匠をそのまま残し歴史的価値を継承します。 ・新築部分はできるだけ光や風が入る計画とします。 | <p>⑭正門及び車両出入口</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保存状態の良い正門は現在の位置に残した計画とします。 ・スクールバスおよび緊急車両出入口を新たに整備します。 | <p>⑯茶室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的価値のある茶室はウィーンの森内に移築し、部活、作法室、交流スペースとして日常的に活用できるように整備します。 | <p>⑱体育器具庫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北側敷地に一部整備します。学校の伝統である「仰げば」の屋上ステージとして活用できる屋上スペースと階段動線を確保します。 |

卒業生の思い出に残る風景や内部の特徴的な意匠を継承し、新たな“京まなび”の場を構築します。



正面オープンスペースのイメージ

■ 歴史と心象風景の継承に向けて

【かけがえのない本物を残すこと】

本館・図書館はモダニズムを基調としながら、和風や西洋の古典主義、アールデコなどを巧みに融合した優れたものであり、文化財的価値と保存について議論がなされています。体育施設を南側敷地に配置する条件下でも、管理棟と図書館棟を躯体ごと残すことで正門と本館のシンボル性を保ち、新しい学校施設として再整備する計画を提案します。

【継承すべきポイント】

心象風景としての景観保存

- 1 正門と本館の正面性とシンボル性の継承
- 2 正門・茶室・和室の保存
- 3 本館及び図書館棟 時代を代表するデザインの継承

【保存改修と増改築に関する行政協議の方向性】

- ・建築基準法において、これまでは一定規模以上の増改築の際に既存不適格建築物を現行法規に適合させる必要があることから保存活用することが困難になっていました。
- ・構造規定については、「建築基準法における既存不適格建築物に関する規制の合理化(平成24年9月)」に基づき既存不適格部分を現行法規に抵触させずに耐震改修を行うことで適合させます。
- ・「京都市歴史的建築物の保存及び活用に関する条例(平成25年10月決議)」に基づき、高さ制限を越えている本館についても、許認可を取得する事で伝統的な意匠・形態を残しながら保存活用します。

■ 歴史を未来へ繋ぐ管理棟の改修提案

【部分的な耐震改修による既存利用提案】

- ・これまで既存施設の保存検討では、全体が対象に検討されており、耐震補強による改修の可能性が低く、免震の場合はコストがかかるという理由で建替の判断がなされてきました。
- ・本提案では、比較的柱が多く構造バランスが取りやすい**管理棟中央部のみを残す**ことで、想定されている工事期間内でも耐震改修による保存改修が可能です。

【耐震化と免震化の比較】

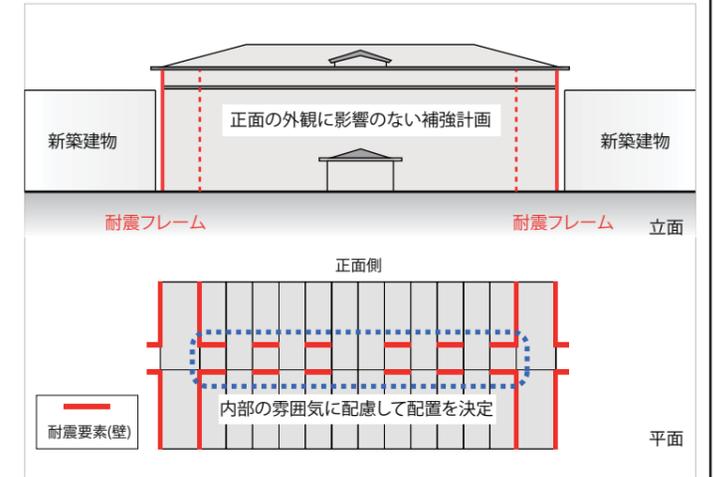
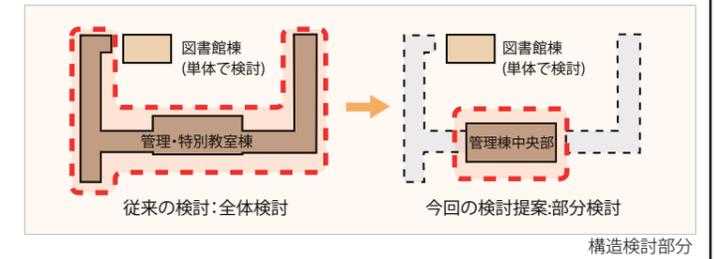
- ・耐震化工事と比較し免震化は上部構造を使いながら工事を行う際に採用されるケースが多く、既存建物基礎を掘削し基礎工事と合わせて免震工事を行う必要があり、多くの工期とコストを要します。
- ・現在、建物は使用されていないため、耐震改修工事でも容易に内部の工事を行うことができ、工期短縮、コスト圧縮面で優れています。

【記憶が継承される耐震改修提案】

- ・外観デザインが可能な限り継承されるように、既存建物と新築校舎との接合部分にアウトフレームとなる耐震フレームの増築と耐震壁を増設する計画とし、**外壁面の影響を最小限にとどめる意匠上の配慮をおこないながら構造的にも耐震性能を満足させる計画**とします。
- ・内部の耐震改修工事においても、建物内部からの眺望や雰囲気等の生徒たちの経験・記憶の継承を重要視し使用に支障のない耐震要素の配置を計画します。

■ 地域とのつながりを継承する図書館棟の改修

- ・比較的軽微な改修で耐震化が可能な図書館棟は、耐震壁の増設により耐震性能を満足させる計画とします。最小限の改修で安全性を満足する計画とし、図書館棟での出来事や、内外観の雰囲気を継承します。



管理棟耐震要素(壁)の配置イメージ

	既存利用				新築
	全体利用		部分利用		
	耐震	免震	耐震	免震	
歴史的価値	△	○	○	○	△
卒業生の思い	△	○	○	○	△
機能	△	△	○	○	○
耐震性能	×	◎	○	◎	○
工期	△	×	○	△	○
コスト	△	×	○	△	○
総合評価	×	×	◎	△	○
	耐震性能確保に難	工期が長くコスト高	内部で耐震化が可能耐震化が容易	コスト高・新築との接合部スペースが必要	歴史的価値と卒業生の思いに難

既存利用と新築の比較表

歴史的・文化的価値の高い諸施設を復元改修し、価値の継承、記憶の継承を大切に、鴨沂高校を再生します。



正門側のイメージ

【正門、新設門、塀について】

- ・正門は現存位置にて修復保存します。御所周辺の景観形成の配慮として、敷地周囲はコンクリート躯体の上に土塀の左官仕上とし、新設する車両出入口用の門は正門との関係に考慮し、冠木門として計画します。



茶室外観イメージ

【茶室の移築、改修について】

- ・茶室は京都の伝統文化に触れる施設として保存改修をおこないます。正門に近い位置で、ウィーン森に連なる和風の庭とともに、来訪者の目に触れる機会を高め、シンボリックに整備します。



和室内観イメージ

【和室の整備について】

- ・和室は解体し、部材を再利用し、既存建物内に内装として復元改修します。作法室や国際交流スペース等の活用のほか、1階レベルに配置することで市民開放スペースや避難施設としての活用が可能です。

【図書館】

- ・現状位置で耐震補強の上、開放可能な記念図書室およびコモンスペースとして再生し、地域開放スペースとして活用します。

【地下道および上屋】

- ・地下道はコンクリートの強度を確かめた上で保全改修する方向で検討します。強度が不足する場合は補強又は復元改修とします。

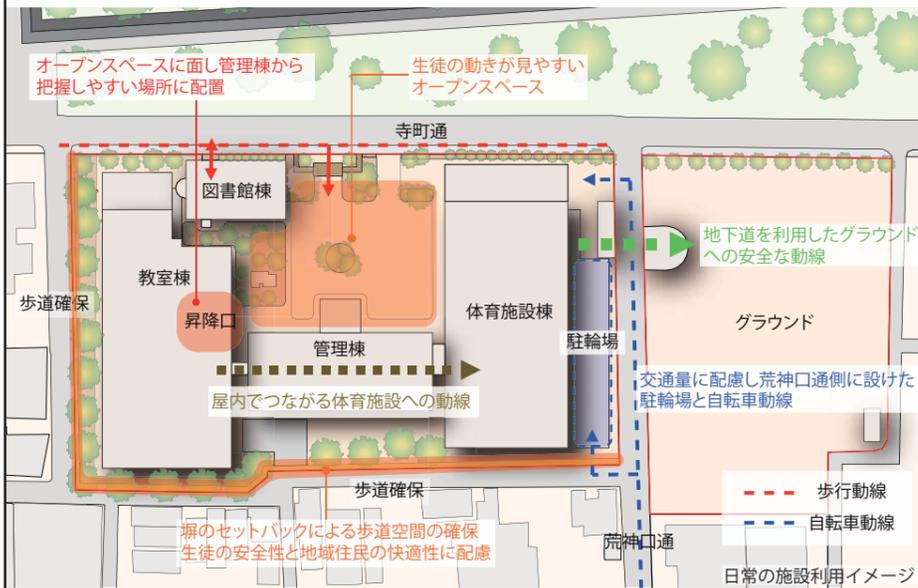
【校長室他】

- ・校長室、貴賓室等の内部仕上は保存改修します。暖炉、床のデザインされた寄木貼、壁の木目を生かしたデザインと仕上材を再現し、先人の歴史を継承します。

【オリジナルの復元】

- ・本館の竣工当初の外装タイル等、過去の改修によって当初の姿が変わってしまったものは、資料等から極力オリジナルの姿に戻す方針とします。

生徒、先生、地域住民、誰もが安全で安心に使える災害に強いセーフティスクール



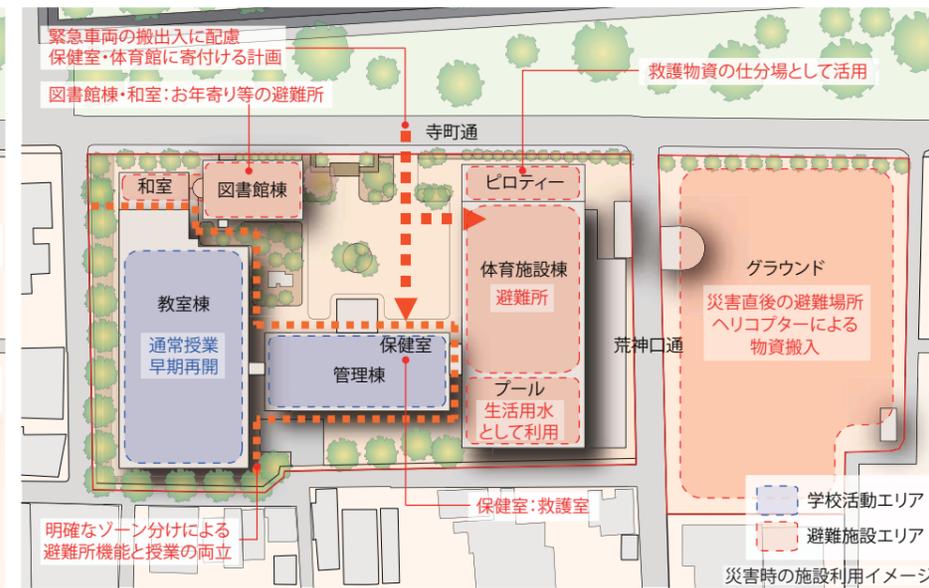
■生徒・地域住民が安心して生活できる安全な学校

【安心安全な日常動線】

- 施設中央部に見通しの良い十分なオープンスペースを設け、登下校をはじめとした生徒の動きが把握しやすい施設配置とします。
- 駐輪場は車両交通量の少ない荒神口通側に設け、昇降口までのスムーズなルートを確認する計画とします。
- 北側敷地へは車道を横切らず、原則として地下道を経由する計画とします。

【地域住民の快適性にも配慮した歩道空間】

- 南側及び東側の塀は敷地境界からセットバックして配置し歩道空間を確保します。生徒の安全性に配慮するとともに、地域住民の生活動線の快適性にも寄与する計画とします。



■災害時にも安心して避難できる学校

【学校活動と避難施設の両立】

- 体育館等を一時避難場所として利用しても、早期に学校活動が再開できるように学校活動と避難者動線がクロスしない明確なゾーニング計画を行ないます。

【災害活動に配慮した施設計画】

- 災害時に近隣住民が避難しやすく、救護物資等の搬入がしやすいように、体育館の入口と緊急車両の出入口位置に配慮した計画とします。
- 体育館に併設してピロティ空間を設け、救護物資の仕分けスペースとして活用できる計画とします。
- 救護室として活用が想定される保健室にも緊急車両が寄り付ける計画とします。
- 管理棟の地下は備蓄倉庫として活用する計画とします。

■ユニバーサルデザインに配慮した施設計画

【既存施設へのユニバーサルデザイン対応】

- 地盤面から高く設定された既存建物1階レベルを考慮し、アプローチ部分の各所にスロープを設け建物へのアクセスがスムーズにできる計画とします。
- 既存管理棟と教室棟の床レベルを合わせることで、段差なくスムーズに行き来ができる計画とします。
- 図書棟は一般開放を考慮し、単体での利用時にもバリアフリーが成立するようにエレベーターを設置します。

【人に優しく豊かな施設】

- 教室棟は中庭を中心とした一体感のある構成とし見通しがよい空間とします。
- 大型サインや色彩に配慮したすべての人に分かりやすいサイン計画とします。
- 手に触れる部分には積極的に木を用いることにより、柔らかく温かみのある仕上げとします。



【災害時にも安心のライフライン途絶対策】

- 災害時や停電時にも必要最小限の電力が使用可能となる非常用発電機を設置します。
- 非常電源は避難所及び活動場所となる体育館、校舎棟の災害対応の照明・コンセント及び給水ポンプ等に供給します。
- プールの水が生活用水として利用できるよう、緊急浄化装置の設置や配管ルートに配慮した計画とします。
- 災害時においても使用可能な防災井戸の設置を検討します。
- 災害時に都市ガスが遮断しても避難所においてプロパンガスの利用可能な配管接続とします。

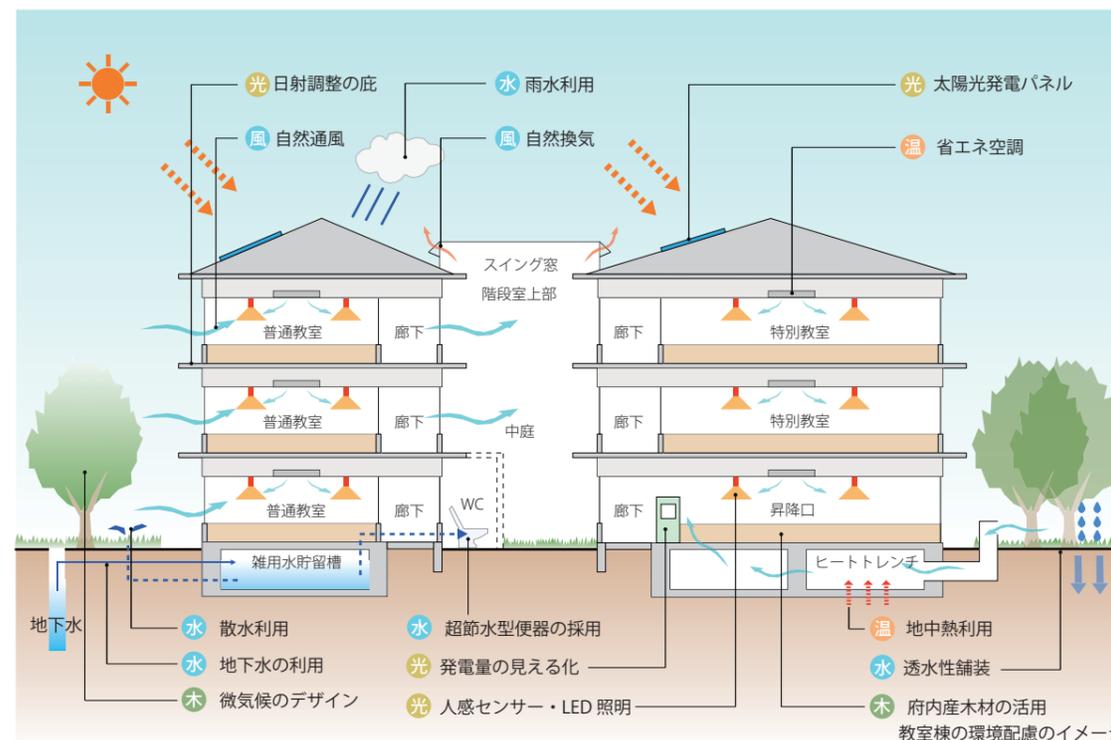
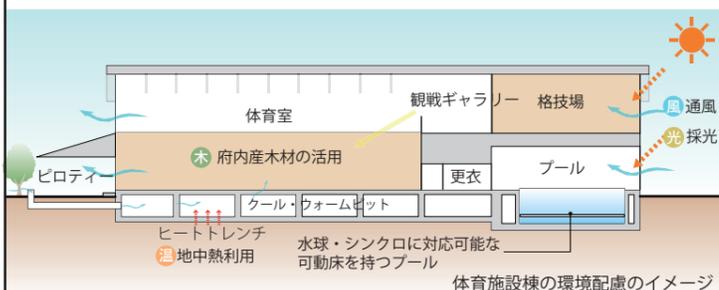
自然エネルギーを最大限に活用した地球環境に優しいエコロジカルスクール

■京都の気候に適したエコスクール

- 夏は暑く、冬は寒いという京都の盆地型気候に配慮した温熱環境計画とします。
- 5～9月の風向きに配慮し、南北に窓を配置します。
- 階段室上部には自然換気用のスイング窓を設け、重力換気を有効に活用し自然換気システムの構築を行ないます。
- 冬季の冷え込み対策のために、最下階の十分な断熱対策を行なうとともに、地熱を利用した熱交換システムを提案します。

■環境への意識を高める体験型エコスクール

- 昇降口には環境情報板を設置し、雨水利用や太陽光発電量を見る形で表示し、生徒の環境への意識を高めます。



■樹・植物のエコ

木 府内産木材の活用

- 積極的に木材利用・木質化を推進し、温熱環境と学習環境の向上を図ります。

木 微気候のデザイン

- 普通教室に面して並木による木陰をつくり、木陰が作り出す「微気候」から涼風により夏季の外部負荷を改善するとともに、室内に涼風を取り入れます。

■光のエコ

光 太陽光発電パネル

- 太陽光発電パネルを設置し、昇降口付近に発電量を掲示します。自立運転機能を併設し災害時に発電電力が利用できる計画とします。

光 照明エネルギーの節減

- 蛍光灯に比べて約40%の省エネが可能な長寿命で高効率なLED照明を採用します。
- 照度センサーや人感センサーを用いた照明制御により無駄な点灯を回避します。

■風・水のエコ

風 自然通風・自然換気

- 自然の風を採り入れ、建物内外の温度差と風の力を利用したスイング窓やエコ階段で自然通風を促します。

水 雨水の活用

- 雨水を貯留槽に貯留し、トレイの洗浄水や散水に有効利用するとともに、節水型便所の採用による水資源の有効活用を図ります。

■熱・温度のエコ

温 地中熱・地下水の活用

- 年間を通して温度が安定している地中熱を利用して、空調の負荷を低減します。

温 省エネ空調

- 節電効果が大きく、冷暖房しながら発電機能も備えた環境に優しい都市ガスヒートポンプパッケージ方式を提案します。
- 大空間である体育館、格技場や講堂は、居住域を快適にし省エネ効果の高い、自然通風を利用した置換換気・空調システムを提案します。